

## 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給方法の提供

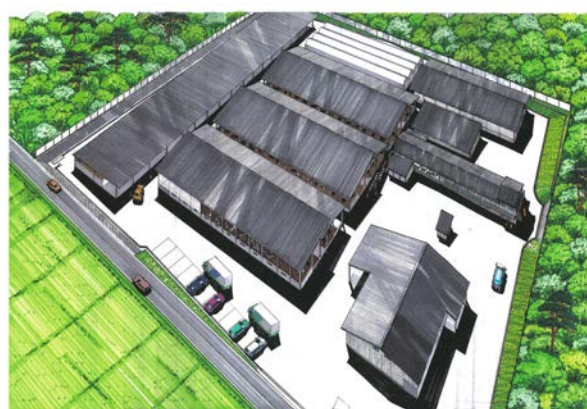
タイトル 株式会社フェリスラテ（復興牧場）への資本供与

J A 名 農林中央金庫福島支店（福島県）

<b>1 動機 （経緯）</b>	<p>福島県では震災・原発事故の影響に加え、従来の酪農スタイル（長時間労働・低収益性等）での営農負担から酪農家戸数・出荷乳量は年々減少し、酪農基盤の回復・再構築が課題となっています。</p> <p>これらの課題解決に向け、福島県酪農業協同組合が「復興牧場構想」を主導し、福島県の酪農基盤の回復、先進的な酪農モデルの構築に取り組んでいます。</p>
<b>2 概要</b>	<p>農林中央金庫福島支店では復興牧場の事業主体である株式会社フェリスラテに対し、平成 27 年 3 月に復興ファンド 60 百万円を出資しました。また、先進的な酪農スタイルおよび安定的な経営の実現に向け、大規模・共同経営の牧場運営ノウハウの習得にかかる研修費用の助成を行いました。</p> <p>なお、復興牧場建設費用見合いで復興ローンの資金対応も予定しております。</p>
<b>3 成果 （効果）</b>	<p>福島県内の酪農業の復興、酪農業の構造的課題に対処する先進モデルの提供に貢献しました。</p> <p>加えて、復興牧場建設予定地の地域を管轄する J A 新ふくしまと連携した耕作放棄地の牧草地化事業の進展にも繋がっており、耕畜連携の加速化、耕作放棄地の解消にも貢献しています。</p>
<b>4 今後の 予定（課題）</b>	<p>平成 27 年 10 月に復興牧場の稼働開始を予定しており、稼働後は東北有数の規模である 580 頭の飼養頭数となります。</p> <p>農林中央金庫福島支店では福島県の復興に向け、金融・非金融面からの支援を継続して参ります。</p>



復興牧場を運営する酪農家ら



復興牧場完成予想図